

# 学力向上を図るための全体計画

**社会の要請・背景**  
 ○新学習指導要領  
 ○都・区の教育目標  
 ○おおた教育ビジョン  
 ○知識基盤社会への対応

**学校の教育目標**  
 ○よく考える子ども  
 ○思いやりのある子ども  
 ○がんばる子ども  
 ○じょうぶな子ども

**学校と地域の願い・背景**  
 ○学校、児童、地域の実態  
 ○地域の期待や願い  
 ○保護者の期待や願い  
 ○期待される児童像

**学校経営方針（学力向上にかかわる要点）**  
 ～ねらいと評価の明確な分かる授業の実践、達成感や満足感が実感できる楽しい授業の創造～  
 ○興味・関心をもち、主体的に取り組む態度の育成  
 ○校内研究（理科・生活科）を通じた授業改善と教師の授業力の向上

**〔各教科の指導の重点〕**  
 基礎・基本を重視するとともに、問題解決型学習等を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

**本校における「確かな学力」**  
 学習指導要領に示された内容を基礎・基本と捉えるとともに、「確かな学力」を以下の二面から考え育成する。

**〔道徳教育の指導の重点〕**  
 教育活動全体を通して体験を重視し、人間尊重の精神と生命を大切にすることを計画的に指導する。

**〔総合的な学習の時間の指導の重点〕**  
 課題の解決や探究活動を通して、各教科・領域等で学んだ知識・技能等を相互に関連付け、主体的に活動できる能力や表現力を育成する。

**学ぶための力**  
 生きて働く知識・技能の習得  
 基礎的・基本的事項の定着（内容・学び方）  
 問題が分かり見通しをもつ力  
 既習事項を使って問題を解く力

**学び合うための力**  
 考えを話す・聞く力  
 考えのよさに気付く力  
 考えを広げ深める力

**〔特別活動の指導の重点〕**  
 心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、より豊かな学校生活を築こうとする自主的・実践的・協力的態度を育成する。

**〔進路指導の重点〕**  
 児童のよさや可能性を発見するとともに、認めたり励ましたりすることで活躍する機会を設定し、個性の伸長と自己有用感の涵養を図る。

**学力向上委員会の方略**  
 ○児童の可能性（目標値）を見据えた学習効果測定等の分析  
 ○教師力の向上と問題解決型学習の全校実践  
 ○児童の向上心の育成

**〔生活指導の重点〕**  
 「あいさつ」「清掃・後片付け」を年間目標とし、学年の発達段階に応じた基本的生活習慣の育成と規範意識の向上を図る。

## 本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
◇各教科において身近な課題から意欲的に課題解決する学習を重視する。 ◇既習事項を想起させる掲示など、学習環境の充実を図る。 ◇算数のステップ学習やベーシックドリルを活用して、基礎学力の確実な定着を図る。 ◇3年生以上の算数で少人数指導を行うとともに、各教科でICT機器の活用を図る。	◇朝の時間を有効に活用し、朝読書や朝学習の時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。(8:25～8:40) ◇水曜補習教室を年間25回、土曜補習教室を年間6回実施し、算数のサポートと学ぶ意欲の向上を図る。 ◇行事や総合的な学習の時間を活用し、学習内容を発表する場を設定することで、児童の学習意欲の向上を図る。	◇大田区学習効果測定を分析し、個々の児童の学習状況を把握し、授業改善につなげる。 ◇理科・生活科を研究教科とし、授業観察・研究ワークショップ(日頃の授業実践の振り返り)により授業改善を図る。 ◇授業改善に向けた小集団によるOJT研修の機会を増やすことで、個々の教師の授業力向上を図る。	◇毎時間ごとの評価規準の具体化を図る。 ◇学習カルテ(学習カード・記録カード・振り返りカード)を活用し、一人一人の学習の成果を見取ることができるようにする。 ◇学習カルテをもとに学習カウンセリングを行い、学習のつまずきや学習方法の改善について指導・助言する。 ◇各教科の評価規準の見直しを図る。	◇「池雪いきいき応援隊」と連携を図り、ゲストティーチャー等による授業を効果的に行う。 ◇ボランティアによる学習支援・図書室等の整備を推進する。 ◇地域素材を有効活用し、児童の興味・関心や意欲を高める。

